

5/16 高知  
白バイ事故訴訟

県警側争う姿勢

高知地裁で口頭弁論

平成十八年、高知市春野町の国道56号で白バイとスクールバスが衝突し、警察官が死亡した事故で、元バス運転手＝服役中＝と妻が「証拠を偽装され罪を

負わされた」と県警などに一千万円の損害賠償を求めた訴訟の第一

高知地裁であり、県警など被告側は全面的に争う姿勢を示した。

被告側は「原告は独自の見解に基づき推論を展開しているにすぎない」とする反論書面を提出。さらに原告側に対し、県警が証拠を偽装したとする手段を

具体的に挙げるよう求めるか、現場写真を加工してバスのスリップ痕

は事故現場の路面に揮過失を押しつけた一な発性の液体をはけて塗

5/16 朝日  
白バイ国賠訴訟  
県など争う姿勢

春野町（現高知市春野町）で06年、スクールバスと衝突した県警交通機動隊の白バイ隊員が死亡した事故で、バスの元運転手と妻が、県や県警を相手取り、約一千万円の支払いを求めた国家賠償請求訴訟の第一回口頭弁論が15日、高知地裁（小池明善裁判長）であった。被告側弁護士は請求棄却を求める答弁書を提出し、争う姿勢を示した。小池裁判長は原告、被告双方に対し、7月15日までに準備書面を提出することを求め、8月11日に非公開の弁論準備手続きを行うことを決めた。